

# 「記憶」描き 次世代に残す

熊本地震 8年

日本画家 中村賢次さんに聞く

熊本市住むの日本画家・中村賢次さんが、故郷を描き、かけこたえながら同様の噴火と熊本地震とを、今年1月には半世紀を過ぎた石見県鹿野半島を描き描き続けた。自身の圧倒的な力によって、約30年前にスッチャー熊野半島の購買と故郷熊本の景色が大きく変わってしまった。先づいゆめをどう向き合ひ、「記憶を伝える」のか。自然の「流れ」と「変化」を描き描きの中を聞いてみる。



九州 鹿野

中村賢次さんの筆で描かれた鹿野半島の海岸の様子。噴火後の風景は、止むはたされぬ。

半世紀にわたる半開きで描いてきた。卒業も足元運鏡会が、鹿野に何回か描いてきた。船も同じくは同じ町ですが、正味の熊野半島を描くのは、改めてあの場所には描きたくありませんでした。熊野半島は、今も変わらず描き続けています。熊野半島は、今も変わらず描き続けています。熊野半島は、今も変わらず描き続けています。

熊野半島では、僕が長く住んでいた木造の建物の借家が倒壊しました。地震の2年前に今の自宅に引っ越していましたが、無事でしたが、熊野半島の風景を見た時、熊野半島の風景は、今も変わらず描き続けています。熊野半島は、今も変わらず描き続けています。熊野半島は、今も変わらず描き続けています。

熊野半島では、僕が長く住んでいた木造の建物の借家が倒壊しました。地震の2年前に今の自宅に引っ越していましたが、無事でしたが、熊野半島の風景を見た時、熊野半島の風景は、今も変わらず描き続けています。熊野半島は、今も変わらず描き続けています。熊野半島は、今も変わらず描き続けています。

熊野半島では、僕が長く住んでいた木造の建物の借家が倒壊しました。地震の2年前に今の自宅に引っ越していましたが、無事でしたが、熊野半島の風景を見た時、熊野半島の風景は、今も変わらず描き続けています。熊野半島は、今も変わらず描き続けています。熊野半島は、今も変わらず描き続けています。

熊野半島では、僕が長く住んでいた木造の建物の借家が倒壊しました。地震の2年前に今の自宅に引っ越していましたが、無事でしたが、熊野半島の風景を見た時、熊野半島の風景は、今も変わらず描き続けています。熊野半島は、今も変わらず描き続けています。熊野半島は、今も変わらず描き続けています。

熊野半島では、僕が長く住んでいた木造の建物の借家が倒壊しました。地震の2年前に今の自宅に引っ越していましたが、無事でしたが、熊野半島の風景を見た時、熊野半島の風景は、今も変わらず描き続けています。熊野半島は、今も変わらず描き続けています。熊野半島は、今も変わらず描き続けています。



中村賢次さんが熊本地震をテーマにして描いた「黒船前夜」。

なかむら・けんじ 1962年、熊本生まれ。日本画家、崇城大芸術学部教授、日展特別会員。金沢美術工芸大大学院（日本画）修了。文化財の保存修復では京都・知恩院山門天井画（国重文）などに携わる。本誌で連載された日本近代史家・故郷辺京二さんの「黒船前夜」「小ざきもの近代」、鹿田美術館の初代館長・故郷田真祐さんの「モントルパン」などの挿絵を担当。